

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホームいずみの里 (ユニット こもれび)		
所在地	札幌市白石区北郷2条1丁目7番3号		
自己評価作成日	平成26年7月15日	評価結果市町村受理日	平成27年8月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502389-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 7 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根差したグループホームでありたいと町内の行事や近くの小学校との交流を深めています。また、普段は近くのスーパーへの買い物やホーム前での外気浴、散歩などで近所付き合いをしています。季節ごとの行事や入居者様の誕生会など催しごとにも力を入れています。日常的に料理作りや食材の下ごしらえ、掃除、洗濯などの家事も入居者様の好みや力量に合わせて一緒に行っています。まだまだ元気でやれるんだ、頼りにしていますという気持ちを大事に日々元気に過ごし喜びを感じていただけるようお手伝いをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームでは、地域との交流を通して利用者の笑顔作りが日常的に行われています。近くの小学校児童との交流、町内会行事への積極的参加など、地域の一員としてごく自然な交流が継続されています。また、家族の訪問頻度が多く、居間では職員と共に賑やかな会話が弾んで利用者を始めとする笑顔作り大きな効果を挙げています。日常の食事ですが、1日に30品目の食材を使用した献立作りが行われ、職員と利用者の手による調理と食事が提供されています。調査時は昼食に焼肉パーティーが催され、職員と幼児を含む家族や近隣のお手伝いの方々などが一体となって利用者との楽しい時間を過ごしていました。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します							
項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の目が触れる場所に掲示、又会議などスタッフ同士で話し合う場で理念を確認し合うように心がけ、それに基づいたケアができるように努めている。	「敬う心、尊厳のある暮らし」はホームにとっての基本理念ですが、職員は利用者へのサービスとしてどのように具現化するかを、日々確認しながら実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の催しごとや町内会行事には積極的に参加し交流を深めている。また、ホーム周辺での散歩や近所の商店への買い物などで入居者の事を知っていただけるように暮らしている。	町内会の良き理解の下、行事などへ参加しながら地域の住民と親しくお付き合いをしています。案内いただいた折にはホームとして必ず参加して地域に溶け込み、散歩時の挨拶にも笑顔を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の催しなどに参加することで、入居者様への関わりや支援の方法を見て頂いている。ホーム主催の行事等へ招待し、生活の一部を見て頂くことで認知症への理解につなげている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合われた内容やご意見はケアの実践に生かし、質の向上を図れるように取り組んでいる。	地域住民の方々、民生委員や地域包括支援センター職員、また多数の家族の出席を得て運営推進会議が定期的開催されて、ホームの状況や活動などが議事録から覗えます。会議終了後は「家族会」が行われています。	比較的家族の出席が多く、会議の活発さは覗えますが、家族の理解を一層深めて運営に参加していただくため、議事録を全ての家族に送付する取り組みが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	複雑事例や困難事例、その他不明な点があれば札幌市、国保連、地域包括支援センターなどへ相談、担当者のアドバイスで解決に向けて協力を頂いている。市や包括主催の研修、勉強会、行政説明への参加、キャラバンメイト活動への協力など連携を図っている。	地域包括支援センター職員を窓口とした情報の提供、また利用者を取り巻く問題解決など連携した体制作りができています。市が進める認知症の支援を容易にするための研修会やキャラバンメイトへの参加も積極的に行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束とはどのような行為のこと」というリーフレットをユニット内へ掲げ、何時も職員やご家族、来訪者の目届くようにして、身体拘束を行わないように取り組んでいる。研修にも積極的に参加し全体会議で発表、職員全員での話し合いを通して情報の共有を図り、ケアの実践に生かしている。	身体拘束をしない、また、虐待の防止に繋がる勉強会などを通じて職員は現場で実践しています。各ユニットのリーダーは職場でのストレスの解消にも気配りを行いながら適正なサービスに繋がっています。玄関は日中、開放されて家族などの気軽な来訪となっていますが、夜間のみ防犯のため施錠が行われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議や毎日の申し送りの中でケアを確認し合い虐待防止の徹底を図っている。研修に参加しスキルアップも図りあらゆる面からの虐待防止を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じてご利用者、ご家族に「日常生活自立支援」や「成年後見人制度」などの情報提供し相談に乗っている。実際に活用となった場合は円滑にいくように支援を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時、契約時は十分時間をかけ「重要事項説明書」をもとに説明し納得と同意が得られるようにしている。契約解除に至る場合でも不安や困りごとなどの問いに耳を傾け、相談に乗るなど納得頂ける対応を心掛けている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議と家族会を開催し、ご家族の意見を伺いケアの取組や対応方法の改善、全体の運営に反映するようにしている。	運営推進会議に合わせて「家族会」が開催されて、出席の家族、管理者、リーダーによる状況報告に始まる運営の諸案件について話し合われています。家族同士の会話も進み管理者は良好な雰囲気作りをしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議を開催し職員全体で話し合いを行っている。	全体会議には時折、運営会社から専務も出席し、意見交換が行われています。ユニットリーダーは日常の仕事がルーティンワーク(決まりきった業務)に陥っていないかも含め、常に活性化を目指しています。職員間では風通しの良い会話が目立ちます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には表彰と資格手当(給与と寸志)でモチベーションの向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に合った研修へ参加の機会が与えられている。自ら希望する研修へ参加することもでき、気づきや受講報告は全体会議の席で発表、共有化が図られている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホーム協議会に加入し連絡会や勉強会などの集まりに参加、事業所間の交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階からご本人にホームを見て頂き、面談の際もさりげなく不安に思っていることや困りごと、楽しみや生活の希望・要望などを話していただけるように傾聴して様子からも推し量るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へは入居が決まった段階でセンター方式アセスメント用紙への記入をお願いし、ご本人の生活歴を知り不満や苦悩に耳を傾けるようにしている。また温かい言葉で今までのご苦勞を労い協働でご本人の暮らし人生を支えていけるような信頼関係作りに努め、ホームでの対応の可能な範囲も事前にお話しして理解が得られるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用時にご本人やご家族の話に耳を傾け認知症の人のケアマネジメント「センター方式」を使いご家族と協働作業でアセスメントを行っている。ケアプランは5つの視点をもとに個別の物とし、必要としている支援を見極めたサービスも含めた対応でその人らしく生きる自立に向けた対応を心掛けている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側という意識を持たずに、人生の先輩、貴重な知恵者として敬い、謙虚に教わりながらお互いが協働して楽しく和やかな暮らしとなるようにお膳立てや場面作りをしながら関係性作りに配慮したかわりと声掛けを行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の思いに寄り添いながらご本人の暮らしの出来事やうれしいこと出来る事気づき等をお伝えして絆、関係性を大切にしている。また、ご本人を支えていくパートナーとしての関係性が築けるように協力している。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人を支えてくれた大切な方やご本人が支えてこられた方たちとの関係性が途切れる事の内容に面会や外出、外泊等の支援で継続的に交流が続けられるように努めている。	家族の来訪と近所の住民との馴染みの関係継続に、大きな気配りが見られます。家族のホーム来訪は頻度の高さが示すように賑やかで、利用者の笑顔作りに大きく影響しています。買い物、散歩など馴染みの場所や人々との交流も続いています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事やお茶の時間、団欒の時間にも職員は一緒にかかわり、会話や笑いの中で楽しいひと時となるように努めている。また輪の中に入ることができず孤立する事がないように調整役となって共に関係性が築けるように関わりとしている。気の合う人同士の関係性作りで落ち着ける生活を営めるように支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの利用が終了しても、その後の状況、近況などを伺いホームに遊びに来ていただいたり尋ねるなどで関係を断ち切らないようにしている。ご家族の相談にも乗り、その後のフォロー支援を行っている。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人のご希望や意向に関心を寄せ、ご家族、関係者からの情報やご本人の表情やしぐさ、日々のかかわりなどの中から把握するように努めている。	利用者の生活歴などを家族の情報をもとに把握しながら、寄り添う姿勢で思いや意向の把握に努めています。どうしても意向把握が困難な場合は利用者本位に検討することとしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始の際、関係機関やご家族からの情報提供、「アセスメントシート」も記入に協力いただき把握に努めている。またご本人との会話から習慣等を把握し今の暮らしに生かした支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方から出来る事、分かること、体調などを把握し、ご本人のリズムを尊重し周囲との調和を図りながら、安心して生活できるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジメント「センター方式」を使い、職員全員が参加したカンファレンスで意見を交換し、ご本人らしく生活できるよう計画を立て情報は共有できるよう「ひも解きシート」の活用をしている。	前回の評価で取り組み課題となっていたケアプランの策定方法ですが、ケアプラン委員会の立ち上げやケース記録の改良などの取り組みが見られますが、ケアプランの項目が多すぎる傾向にあります。	ケアプラン委員会が十分に機能して、本人がこれまでの暮らしを継続するための課題を整理しながら、絞り込んだ項目のプラン作りを期待します。また、的確な実践記録もプランの見直しに役立つことを念頭にケース記録の記載方法の検討を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やご本人の言葉やかかわりとその結果を記録し、全職員が勤務に就く前に目を通し情報を共有しながらケアにあたっている。介護計画の評価や見直しの際にも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族から安心して頂けるように通院や入院、外出外泊など状況や要望を考慮しながら柔軟な対応で満足いただけるよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	色々な社会資源の把握に努め、それらの協働を模索しながら関連施設等への働きかけを行っている。運営推進会議では民生委員の方、婦人部の方などが参加してくださり、支援、協力をいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がいる場合は受診の結果を共有できるようにご家族からの情報伝達や同行受診し、体調を含めた日常の様子、暮らし方などを伝え、適切な医療が受けられるように支援している	一部を除き、ホームの協力医による受診及び治療が行われており、利用者にとってのかかりつけ医となっています。月1回の往診や通院支援及び訪問歯科医による口腔ケアなどが行われ、家族から信頼と感謝が寄せられています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師やホーム医の看護師とは相談できる関係性ができている。ホーム医の看護師は医師への橋渡しもしてくれ、安心して適切な医療が受けられるようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時「介護要約」の治療がスムーズに受けられるよう、又入院によるダメージを最小限に防ぐために早い段階からご家族の協力も得ながらソーシャルワーカーや看護師を通して情報を得るようにし、早期の退院に向けた働きかけを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期に向けたホームの対応可能な範囲の説明を入居相談の段階から行っている。ホームの指針を準備し、ホーム医の支援を受けながら地域との関係機関の協力を得るようにしている。ご家族の気持ちの変化やご本人の思いに注意を払い、全員で方針を共有している。	入居に際しては、ホームとしてできること、できないことを記した重度化・終末期対応の指針が説明され、家族などの承諾書を頂いています。医師の指導の下家族との相談に応じながら、より良い援の方法について検討が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が救急救命講習を受講。その後も継続して応急手当や初期対応の訓練を受け、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年春、秋の2階の防火・避難訓練を実施している。消火器の使い方や夜間を想定した連絡網活用などの訓練も行っている。	消防署の指導の下、年2回の昼夜想定避難訓練が行なわれています。また、緊急連絡網の利用効果の検証なども行ない臨場に備えています。地域の住民の協力もありますが、マニュアルの整備不足、ホームの自主訓練の不足など改善の余地が残されています。	年2回の火災の避難訓練に止まらず、広範囲な災害を想定した自主的な訓練の取り組みを期待します。また、地域住民の協力を頂く範囲などを明記したマニュアルを作成し、運営推進会議などで協力を願う取り組みを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は全体会議などで個人情報保護法や情報の漏えい防止について勉強会やミーティングを行い意識向上を図っている。介護の時にもご本人の誇りを傷つけないように羞恥心、プライバシーに配慮した声掛けや誘導でさりげない対応をしている。	あらゆる研修の場や会議の中で、利用者個々の人格の尊重、プライバシーの確保について確認をしています。入浴時やトイレ誘導などの言葉かけにも十分気配りしています。更衣室の紙おむつなど利用者の名前が見える点については、早急に改善することとしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が言葉での意思表示が困難な場合であっても表情や全身の反応で思いやりや希望が表せるように意図的に働きかけ注意深くかかわり、快不快、希望や好み、思いの把握に努めている。する、しない、飲み物、食べ物など些細なことでもご本人が決める場面を作るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	基本的な一日の流れは持っているが、職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人一人のペースを大切にしその日をどのように過ごしたいのか、思いや体調にも配慮しながらご本人の気持ちを尊重した個性のある支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれとなるように日常会話の中から本人の意向やこだわり、好みなどを把握し個々の生活習慣に合わせた支援をしている。朝の着替えは基本的にはご本人の意向で決めており、自己決定の困難な方には一緒に選んで手伝うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一日当たり30品目の食材使用をめざし、職員が調理している。会話の中から食べたいものを探ったり、買い物、味付け、盛り付けなど出来る事を利用者と一緒に行い、食事までの過程も楽しめるように支援している。	利用者の好みなどを聞きながらたくさんの食材を使用して、利用者と一緒に調理するなど、食事に対する配慮が見られます。利用者は食材の買い物も職員とともに出かけていましたが、ADLの低下により最近はやや少ない状況にあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録に残し職員全員で共有している。むせこみや嚥下の状態なども観察し、とろみなどで対応している。医師や看護師と連携しながら支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には歯磨きをしていただき、個々に合わせたケアを行っている。毎週、歯科医師、衛生士による往診と口腔ケアを行っている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンやリズムを把握し、必要に応じた声掛けや誘導でトイレでの排泄に向けた支援を行っている。	利用者の様子及び排泄パターンを熟知しそれとない声掛けにより、トイレでの自立した排泄が継続できるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、繊維質の多い食材を献立に入れるなどの工夫をしている。散歩など適度な運動を心掛け自然排便につながるよう取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	一方的に入浴日を決める事はなく、個々の希望や体調を確認してから入浴にお誘いしている。入浴時には利用者との会話、スキンシップを大切に支援している。	利用者の好みや要望を聞きながら、週2回を目安に入浴をしていただく支援を行っています。入浴を拒む場合には職員を変えたり日や時間を変えるなどして入浴を楽しんでいただく気配りをしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動を促し、就寝時安心して眠れるように支援している。個々の体調を考慮し場合によっては日中にも休憩時間を設けるなど工夫している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を活用し、薬の目的や副作用を確認、理解するように努めている。心身上の変化や気づきは速やかに医師や看護師へ連絡し対応を相談している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段のかかわりの中で好きなことや得意なことを見極め、出来ないところはさりげなくお手伝いしながら家事や趣味活動をしていただいている。その中で満足感や達成感も得られるように支援している			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は天気を見て買い物やホーム前での外気浴や散歩などを支援している。季節に合わせた畑仕事やお祭り、ドライブなどにも参加して頂いている。	好天時の散歩や近くの買い物などにより、できるだけの外気浴に努め、閉じこもりがちなよう支援しています。また、ドライブによるお花見や区のふるさと祭り、よさこい演舞の見学など利用者の笑顔づくりに役立てています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や能力に応じてお金を所持してもらい、使用の際は支援している。子供みこしのおひねりやひ孫様へのお年玉などをお渡しする支援も行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状を出すための支援や電話を掛けたり取次などの支援を行っている。その際にはプライバシーへの配慮にも気を配っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からフロアにかけて季節に合わせた飾りつけをし、行事の写真を張り出すことにより入居者様やご家族、来訪者の話題づくりにも活用している。	1階の玄関はエレベーターホールも兼ねているため、若干手狭ですが家族の賑やかな行き来が続きます。居間及び食堂はゆったりとした広さを有して家庭的な雰囲気作りへの配慮が見られます。窓辺には植物の鉢が並ぶなど居心地よい空間となっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の他に廊下や居間に椅子やソファを置き、一人で寛いだり他の入居者様と談話して過ごせるように配置にも気を配っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や使い慣れた物をご本人と相談しながら安全を考慮し設けている。ご本人が極力納得いくように部屋作りをし、安心・安全に暮らせるように配慮している。	使い慣れた生活用具の持ち込みは、利用者個々によって差異はありますが、仏壇やソファ、洋服掛けなど整頓されており、居心地の良い安心の生活空間となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線には障害物を置かないように気を付けている。ご入居者のADLに変化があればそれに合わせた家具の配置換えなどもその都度行っている。			